

昔の一枚

伊勢の民俗行事

お木曳きひき

500年以上の歴史がある伝統行事「お木曳」。神宮にご用材を運び入れる労役を起源とする伊勢ならではの特別な民俗行事です。



昔の陸曳「どんでん場」(写真提供/小川町奉曳団)

明治、大正時代のお木曳

伊勢の「神領民」の役割、神宮への「奉仕」として、500年以上前から継統されている「お木曳」。楡のご用材をそり(川曳)や奉曳車(陸曳)に載せて曳き運ぶことが行事となりました。

陸曳は、宮川の貯木場(関場)から引き揚げる場所から始まります。お木曳が近づく、河原から堤防を越えるために宮川の堤防の両側に大がかりなスロープが作られます。それが「どんでん場」です。

まず各団、河川敷で「ご用材」をそりに載せて川の中へ。そこから水揚げして奉曳車まで運びます。ここは危険を伴うため若い人たちだけで綱を曳き、どんでん場の斜面を勢いよく登って、「ご用材」が堤防の上にあがったときにいったん停止し、シーソーのようにそりを揺らし「木の水切りを再現している」といわれています。木遣りの披露などをして息を整え、その後「エンヤ〜!」と、一気に曳き降ろすのが、行事の最初のヤマ場です。写真は、昭和以前の「どんでん場」の様子。横に立つ人と比べると「ご用材」の大きさがわかります。

その後、そりから奉曳車へと積み替えられ本曳へ、町民みんなで伊勢の町なかを奉曳し、外宮へと向かいます。

昔のお木曳写真を募集しています。

紙面でご紹介するお木曳の写真資料を収集しています。時代をあらわす貴重な写真などがありましたらご提供ください。お問い合わせ 伊勢御遷宮委員会 05961255215

悠紀田、主基田

天皇陛下のご即位・ご即位 キーワード

天皇陛下が即位された最初の「新嘗祭」が大嘗祭で、天皇陛下の実質的な最初の大嘗祭です。皇居内に造営された大嘗宮に、夕の儀を行う悠紀殿と暁の儀を行う主基殿が東西に建てられ、大祭が行われます。その時にそれぞれの宮に捧げるお酒やお米。そのための稲束を奉る場所は古法にのっとりた占(亀卜)で決められます。

京都を中心とした畿内を境として東西の都道府県の中で献上されるお米の生産地が定められます。歴史に残る栄誉となる稲田もまた、神代と同じように東側の悠紀田(平成は秋田県)、西側の主基田(平成は大分県)といわれ、注目されることとなります。

皇位継承に伴う儀式や、天皇陛下が行われる祭祀など普段はなかなか知る機会はありません。元年となる年はそんな話題も伝えられることでしょう。日本の歴史に残るご即位を体験する貴重な一年となりそうです。

平成感謝

平成から次代へつなぐ

感謝と祈り

新しい御代を迎える瑞穂の国日本

実りの秋に感謝の思いを

今年も実りの秋を迎えることができました。

天照大神から稲穂を託された神話に語られる国のはじまりから、どんな時代背景となつても、稲作は歴史、生活文化を支える根幹でした。命の糧として毎年お米をつくり、自然とともに生きてきた日本。今年のように大きな自然災害や天候の影響を受けると尚更、収穫や、生きていることにいっそう感謝の思いが強くなります。

稲作を暮らしの中心として身近に神々を祀って豊作を祈り、実りを感謝するこ

とがお祭りになりました。私たちの当たり前暮らしの中に「感謝と祈り」が息づいています。

神宮には全国からの感謝と祈りが集まる

そして、今年はまだ特別な年。来年には天皇陛下のご即位、ご即位による改元を迎えるという歴史的にも大きな「時代」の転換を経験させていただけることとなります。この平成30年は、平成の御代に感謝し、次代へ日本の未来へつなげていく節目です。

まさに日本中にお祝いの気運が高まるかつてない機会。それにともない神宮は

平成三十年 平成への感謝を胸に、神宮へお参りを
新元号元年 新しい時代の平和、安寧を祈つて

平成感謝の神宮参拝

「感謝と祈り」それは、いつの時代も日本人が続けてきた、一人ひとりができることです。

自分が生きた時代として平成の御代に感謝し、新しい時代の未来が平穏であること、そして日本の栄栄を祈る。弥栄とは、「ますます栄える」という意。昔からの大和言葉のひとつです。

平成の時代が変わる今、揃って神宮参拝を。まず伊勢から発信していきたいものです。



伊勢のごせんぐう